

『平成22年度 街なか再生NPO助成金』

助成事業の報告

本助成金の募集につきましては、今年の2月1日から3月31日までの2ヶ月間行ったところ、21道府県から32件の応募をいただきました。応募いただいた申請書類にある、すべての事業を各選考委員が確認し、選考委員会で助成対象が決定いたしました。

下記の4件を対象に助成を行います。

■ 平成22年度助成事業一覧

事業名	団体名	実施場所
鹿角街道まちづかい＝こもせの映える まち花輪	NPO法人関善賑わい屋敷	秋田県鹿角市
OYAMAコンテナート109	小山市小山東部第一 区画整理組合	栃木県小山市
中央一丁目地域まちづくり	中央一丁目地域 まちづくり委員会	埼玉県春日部市
LSC 沼津みなみ「まちづくりカフェ」事業	(株)LSC沼津みなみ	静岡県沼津市

事業名称	鹿角街道まちづかい＝こもせの映えるまち花輪
団体名	NPO法人関善賑わい屋敷
事施場所	秋田県 鹿角市

事業概要:

道路拡幅事業により整然と立ち並んではいるが過疎に悩む中心商店街と、同じ通りにあるが少しだけ離れて位置する花和の市日(朝市)、そして、その向かい合わせに唯一残った”こもせ”を保持し、NPO が管理利活用する歴史的建造物「登録文化財 旧関喜酒店」を有機的に結び付け、子供たちを主体にした面白イベントを年間を通して連続的に開催することにより、商店街や朝市への期待感を抱かせ、街なか再生の起爆剤として賑わいを創出。

※「こもせ」とは、越後では雁木といい、雪国特有の建造物。自分の家の庇を提供し、往来できるようにしたもの。

実施報告:

○童謡音楽会「やっこ やっこ くりだした」(9/11)

地元出身作曲家 小田島樹人氏の「おもちゃのマーチ」の歌詞から「やっこ やっこ くりだした」と題し、歴史的建造物旧関喜酒店板の間をステージに、「背くらべ」の作詞家海野厚氏の親族を招いて、トークとコーラス・オカリナの演奏会を実施。約 200 名の観客が集まった。

○たんぼづくり講習会「わくわくきりたんぼ」(9/9)

保育園児が交代で緋の着物にあねさんかむりの姿をして、郷土料理として有名な発祥の地鹿角のきりたんぼづくりを体験。

○ものづくり作品展(11/19-11/23)

鹿角在住工芸職人 14 名参加により、かづの裂き織、コーン人形、漆工芸、木工芸などを展示。期間中約 800 名のお客様を集めた。

○かづの餅ぶるまい(1/14)

朝市の会場において、園児が餅つきをし、道行く人々に振る舞い喜ばれた。

○民話の読み聞かせ(1/23)

鹿角民話の会の協力により、関喜囲炉端の間で、「囲炉裏で昔っ子」子供たちに聞かせを実施した。

○こもせ街なか写真館(2/28-3/18)

「みんなの笑顔に春が来た！」をテーマに、子供たちの笑顔の写真 40 枚ほどを関喜こもせボードに展示。商店街の行き帰りに笑顔の写真を眺め、楽しく話し込む姿も。



事業名称	OYAMA コンテナート 109
団体名	小山市小山東部第一区画整理組合
事施場所	栃木県 小山市

事業概要:

区画整理事業完了を見据え、これまでの「まちをつくること」からエリアマネージメントの視点を取り入れた「まちを育てること」が必要となっている。これまでに取り纏めた「まちづくりビジョン」の実現に向けて、どのような取組が出来るか試行する必要がある。区画整理組合後もエリアマネージメントを担える可能性のある人材の発掘、良好なパートナーシップの構築、住民自らまちづくりに関わるおもしろさを体験してもらうことを目的に、地域交流拠点場所と目されている保留地を活用し、地元企業等との連携や住民参加型のアート・デザインフェス「小山コンテナート109」を実施。

- ・東部第一地区内の保留地 109 番を活用した住民参加型のアート・デザインの祭典。
- ・保留地にコンテナを設置し、その空間を拠点にした展示やワークショップ、お店の出店を誘致
- ・各企画の実施は、連携先となるクリエイター、大学、専門学校、地元企業等に依頼。
- ・地元住民は、各企画のサポーターや参加者として参画。

実施報告:

期間： 2010年11月13日～12月12日の土日（計10日間）

- ①アート展・・・和モダンアート展 来場者数：280名
- ②ものづくり展 来場者数 350名
- ③まちづくりビジョンの展示 来場者数：200名
- ④ワークショップ展 来場者数：60名
- ⑤ゴスペルライブ



事業名称	中央一丁目地域まちづくり
団体名	中央一丁目地域まちづくり委員会
実施場所	埼玉県 春日部市

事業概要:

昭和44年に区画整理が完了し、駅直近という優れた立地環境にあるものの、近年の著しい社会経済環境の変化等により商業は減衰傾向にあり、地権者や周辺住民による地域の活性化に資する街区再編のまちづくりの検討を開始したものの、機運醸成が図れず、ワークショップ等への参加者は少ない状況であった。

このため、これまでの組織を地権者主体の新組織に移行し、委員会・アンケート・ワークショップ等を通じて、具体的な問題の共有化を図り、まちづくりを推進。

実施報告:

1. 委員会の開催
2. 新協議会の発足
3. 来年度の進め方(案)の確認

■スケジュール

平成22年4月：役員会① 今年度の進め方の確認

5月：委員会② 参加の呼びかけ方について①

6月：委員会③ 参加の呼びかけ方について②

7月：アンケート実施（地権者への呼びかけ等）

8月：委員会④ アンケート結果報告・再開発事業のポイントについて

10月：協議会（第1回）協議会発足、ワークショップ①

12月：協議会（第2回）ワークショップ②

平成23年1月：事例地視察

2月：協議会（第3回）ワークショップ③



事業名称	LSC 沼津みなみ「まちづくりカフェ」事業
団体名	(株)LSC沼津みなみ
実施場所	静岡県 沼津市

事業概要:

まちづくり活動の拠点となっている「まちの情報館」は、中心市街地の活性化のためのイベントなどアーケード名店街の活動拠点であり、地権者が日常的に集まりやすい位置にある。この場所を利用して、【まちづくりカフェ】を設置し、当地区のまちづくりに関する情報交換機能を視覚的に見せることにより、一層の合意形成を図る。

【まちづくりカフェ】

①まちの情報館の一面に「まちづくりカフェ」と名付けるコーナーを設け、パネルや模型を展示。

②地権者は比較的高齢者が多く、事業実施に向けて様々な不安材料をもっていることから、定期的にまちづくり相談デーを開催し個別事情に対応したきめ細かな相談窓口をつくる。各相談は、他の地権者にとっても参考になる場合が想定されるので、共通の心配事や希望をカード形式に整理して、「ご意見板」を設置。

実施報告:

まちの情報館」のショールームを使い3回にわたって再開発についてのパネル展示会を開催。

地権者の方々にパネル展示を見てもらうと共に個別の相談会を各1週間開催。

1. アメリカサンノゼのサンタナロウの写真展 (7/15~8/15)

地権者代表がアメリカ視察に行った現地写真を展示

来訪者 38名 相談件数 5件 展示物を見ていた人延べ 2,000人

2. 土地と建物の分離についてのパネル展示 (9/20~10/30)

来訪者 42名 相談件数 3件 展示物を見ていた人延べ 2,000人

3. CafeM103の構想図展示 (1/10~1/30)

来訪者 46名 相談件数 5件 展示物を見ていた人延べ 2,000人

